

- 1 P. 開講中の3事業の紹介
- 2 P. ふるさとを想う
生まれ育ちと言葉の研究
にしき発見
なまず押さえ神事
- 3 P. ひと 地域医療を支える市民の会
まち NPO 法人日時計の丘
- 4 P. 交流ルーム 「夏宿題を
やっつけよう」に参加して
図書紹介泣き虫ハチャちゃん
事務局だより

認定 特定非営利活動(NPO)法人

みなみ会 だより

2017年12月1日発行
第16号

つたえる部会編集

〒677-0054

西脇市野村町1795番地の8
西脇南中学校1F地域交流ルーム内
TEL.0795-22-5151
FAX.0795-22-5152

E-mail : info@minami-kai.org

URL : http://minami-kai.org

ホームページ [みなみ会](#) 検索

簿記講座 小6生も受講

毎年5月中旬から11月中旬まで、毎週金曜 午後6時30分〜8時30分までの26回講座。みらいへの会議室で開催しています。内容は日商簿記検定3級取得を目標にしています。現在、4人

電話、フックス、電子メールで。

開講中の3事業紹介

毎月1回、南中地域交流ルームで開催しています「遊書講座」。今回、日頃の成果を発表する機会を、西脇病院1階のエントランスでもちました。

講座生10名が作品を出展。来院者の方々の関心を、ひいていました。

12月から冬コースが始まります。申し込みは、事務局まで。



西脇病院エントランスで作品展(9月)

遊書講座 作品展を開催

が最後まで学習に取り組んでいます。その中に、親子参加の小6女兒がいます。専門用語に苦労しながら、理解しているのに感心します。本人は複式簿記の仕組みに興味があり、学んでいて面白いからと言っています。

親子教室 18組が参加

6月から毎月1回、日曜日の午前中、みらいで開催。市内から18組の親子が参加しています。この教室は、読み聞かせを中心にして、親子の絆を毎回のプログラムを通して深めるのが目的です。

読み聞かせでは、落ち着いて話を聞く習慣が育っています。また、おやつ作り、弁当作りやケーキ作りなどでは、親子で楽しく協働作業を通して、親子の絆を深めています。来年度も開催する予定です。



よみかせ風景(6月)

南中美術部員が絵馬作成中 地域貢献として誇りをもって制作

今年で5回目を迎える絵馬制作。みなみ会が南中美術部に依頼しています。部員が貴2枚大の画面に向かって力をあわせて制作中。なお、絵馬は12月9日、宮の本春日神社で披露されます。

今回の絵馬制作にかかわった美術部2年生の井上東南さんに、取り組みについて寄稿してもらいました。「この3年間は部の中心となった2年生がデザインを考へています。今回は候補に残った二種類デザインの良いところを合わせ、二匹の犬が寄り添うような構図にしました。去年の二ワトリもでしたが、一匹ではなく、二匹描くことで、家族でも仲間でもご近所の人でも助け合って、寄り添って、明るい一年になればという思いを込めました。



下絵は一斉に取り掛かり、みんな協力して仕上げました。着色では普段大きな木に描くことがあまりないので、ペンキと水の分量が分からなくて、濃くなってしまうたり、色を変えたいのに作りすぎて色が変わらなったり、作った色がくすんでしまったりと大変

でした。いつもは、ある程度色を決めてから塗り始めますが、塗っているうちにイメージと違っていていることに気づき、影の色を変更したり、まったく違う色にしたりと試行錯誤を繰り返しました。

絵馬制作は去年そばで見えていたよりも大変で、とても時間がかかりました。けれど、みんなで力を合わせて一つの作品を作ることはあまりないので、この絵馬を制作することで部員の絆もより深まったように感じました」

ファッションショー & ミニコンサート 教育講演会を来春開催

西脇高校生活情報科生
ファッションショー &
サクソフォン4重奏とのコラボ

今年10月、秋田市で開催された全国高校生ファッションデザインコンテストで、最優秀賞に輝いた生徒たちのファッションショーと、サクソフォン奏者4人による素敵な演奏を、お楽しみ下さい。同校生活情報科の説明もあります。興味のある市民の皆さんのご来場を、お待ちしております。

3月11日(日)、午後1時からみらいで開催。

吉田稔実さんの講演・講習

西脇出身の絵本作家・イラストレーター
吉田稔実さんの講演・講習

詳細については、調整中です。1月中旬にはH・Pで掲載いたします。

ふるさとを想う

藤原 浩史

生まれ育ちとことばの研究

「同じ日本語なのに、なぜこんなに方言があるんですか？」とよく学生から聞かれる。よくある素朴な疑問である。しかし、実は、この質問は質問の中に答えがある。日本には「方言」という「違う日本語」がたくさんあるのである。北播に生まれると、方言をしゃべるようになるが、神戸や大阪の都会の関西弁とはかなりちがう。「センセがおつてや」と言わずに、「いてはる」と言わないとへんな顔をされる。うっかり「センセがおつちやつた」などと言うと聞き返されるだろう。通じないのは言葉が違うからである。

ところが、都会の人にとっては、それは「同じ日本語」をしやべらない人間なのだ。気の毒に思われたり、馬鹿にされたりする。まことに不愉快なことである。とは言え、わたしの生まれた黒田庄でも、北と南ではことばがちがうし、西脇ともまたちがう。「来ない」というのを「キヤヘン」という人もいれば「キヤーヘン」「キーヒン」「ケーヘン」「コーヘン」これ全部、みなさん聞いたことがあるだろう。どれが正しい語形か、決めることはできない。いずれも「来やせん」からの音の変化である。それぞれのことばにそれぞれ

の歴史があるし、それぞれの地域で決まっていれば問題はない。学校でならう標準語ではないから、正しさの基準などない。

同様に、千年前の日本語と五百年前の日本語と現代の日本語はしくみが違う。平安の貴族と武士では言葉が違う。僧侶や庶民もまた違う。言葉というのは、その時代・その社会でテキストに決まっているものである。このテキストさを言語学では「言語の恣意性」と呼ぶのだが、案外むずかしい。ふつ

う物事は理由があつて決まる。ところが言葉は理由なく決まり、日和見的にかわるのである。



実家近くの兵主神社

共通語で育ち共通語で生活している人々には「正しい日本語があり、美しい日本語がある。その正しさや美しさの基準は、傍から見ると彼らの思い込みである。思い込んでいる人には、テキストに決まることや、実はどうでもいいことがわからない。しかし、みんなが違う日本語を話しているところに育つと、それは当たり前のことである。ふるさとを離れて、わたしは日本語を研究することとなったのだが、ふるさとで言語学や国語学の早期英才教育を施しても

らつていたと感ずるのである。

筆者プロフィール

藤原浩史(ふじわら・ひろふみ)中央大学文学部教授。1962年黒田庄町生まれ。西脇高校卒業。東北大学大学院博士課程中退。国立国語研究所・研究員。日本女子大学・専任講師・助教授を経て、2006年より現職。専攻、国語学(意味論、古代日本語)。著書『国定読本用語総覧』(三省堂)、『文法記述の諸相』(中央大学出版会)など。

にしわき発見 板波町石上神社

なますおさえ神事について

秋の大祭日の夜(午後7時)におごそかに行われる神事で、平成16年に兵庫県指定無形民俗文化財になっている。由来は、天文11年(1542年)に石上神社を現在の地に移すとき、神殿に奉納されていた宝刀が、盗賊に盗まれた。近くの野間川の姫滝に沈んだ宝刀を、探していた人が潜つてみつけた。布に包み神殿に戻そうとしたところ、包まれていたのは、宝刀でなく大鯰であった。このとき神罰を恐れ、秋祭りの日に宝刀を捜している姿を奉納し、今も忘れずに捜し続けていること

を神前に報告している。神事は本殿を挟んで野村町(北側)、板波



町(南側)に分かれて、ムシロの上で「シユウシ」といわれる直会と本殿前の土俵で双方から立武者、練負、莫摩持、拵持の4役で行われる。由来の所作を表現し奉納する。最後に行司役が登場し、子ども相撲で締めくくる。

皆さん、是非一同神事をご覧ください。(保存会広報部)



NPO法人みなみ会、がんばって下さい!

社会福祉法人 かすぎ野

西脇こども園 幼稚園部 保育部

一時・休日 学童も可

病児保育もOK!

★保育時間 AM.7:00~PM.7:30

★対象年齢 生後6週間~就学前

NPO法人みなみ会を応援します。

快適なオフィス空間づくりを応援します。

- ・コピー複合機・デスク&チェア・書庫・スチールロッカー
- ・パソコン関連・タイムレコーダー・パーティション...



文具センター

テラカワ

西脇市西脇1051
TEL.22-2137 FAX.22-6353

「宿題をやっつけよう」に参加して

藤原 基司

「おはようございますー」
朝8時50分頃、気持ちのいいあいさつと共に子供達が次々と教室に入ってきます。そして9時になり、気持ちのこもった「お願いしますー」の号令と共に1時間目の学習が始まります。

子ども達は各自の宿題を持ち込み、黙々と宿題に取り組み始めます。

交流ルーム



子ども達はわからないことがあると、積極的に支援スタッフの方々に尋ねたり、先輩である上級生に教えてもらいながら宿題をやっつけています。

そして1時間目が終わると同時に子ども達は、10分間の短い休み時間をフル活用するかのようになり、学年の垣根を超えてみんなが仲良く遊んでいます。
私は今回の活動で、子ども達がわ

からないことを、積極的に尋ねる姿やお互いに教えあったりしている姿を見て、子ども達のバイタリティーを感じると同時に、コミュニケーションの重要さを感じました。

普段の学校生活より人と触れ合う機会が少ない夏休み。子ども達はお互いに教え合ったり、勉強でわからない箇所を子育て支援スタッフに質問したりすることで学力を育むだけではなく、コミュニケーション能力も育んでいたと思います。

今年も市役所、教育委員会の方達が多くお見えになり、子ども達が学習する様子を見ながら西脇市の教育をより良いものにしてゆくと、意見交換をされていました。普段の子ども達の授業風景を見る機会がありません。市役所の方や一般の方々にとってもこの活動は子ども達を知ることができる大事な場所となっていました。

最後に、私は夏休みという短い期間で、はじめてこの活動に参加させていただきました。勉強を教えるだけでなく、西脇市の行政、経済都市計画と様々な視点から教育について考えることができ、とても貴重な体験をさせていただきました。

お世話になったみなみ会にお礼を申し上げると共に、この活動が今後良いものとし、子ども達の健やかな成長を促すことを願っています。
藤原基司(ふじわらもとし)
営学部都市経営学科2回生

豊かな心を育むきっかけに

書名 はじける！
パットライス
著者 くすのきしげの
絵 大庭賢哉
出版社 あかね書房

夏休みに、おばあちゃんのお母さんと一緒にやっていたハルカ。そこへ、おばあちゃんが入る。おばあちゃん準備ができたのだ。何かしやが、食べたいものをたずねると、おばあちゃんは「パットライスがたべたい」という……。



「パットライス」で育った私は、題名に心惹かれて読んだ。ハイカラでおしゃれなのに、少数派とは。徳島香川等でしか使われていないという衝撃の事実。

最近では「ぼん菓子」に馴染んでいたが、「パットライス」という言葉とともに、幼いころの風景までも浮かんで来た。

お米と砂糖、割木を持って行き、どきどきしながら待った。大きな袋にパットライスを入れてさき明にのみがえる。

お菓子のない時代に、唯一贅沢な食事ができたスイーツであった。

弟妹たちを押しつけ、袋に頭を突っ込んで食べたのも懐かしい。

さて、物が溢れる現代の子どもたちは、どんな言葉や風景を懐かしく思い出すのか。

岸本信子(サポーター)

事務局から

秋の夜長にふと8か月間の活動を振り返り思い浮かぶことは、多くの人と交流があり、その中で自分なりに新しい経験を積むことができたなあということ。夏休みや日々のミライエの学習支援における大学生や高校生との交流や子ども園、幼・小・中・高校の先生方、各種団体の関係者の方、さらに地域住民の方々と交流ができたこと、今までは一味違った経験を積むことができ感謝しています。

みなみ会の活動は、「つたえる」「まじわる」「ささえる」「はぐくむ」の4部会を構成し、各部で協議された内容を理事

会で検討し活動につなげています。新たに理事会で、研修の時間を設け「NPO 法人とは」「独自の健康法について」「地域での取り組みから学ぶ」などの内容で研鑽に励んでいます。

これからの活動として、南中美術部員の制作による絵馬を宮ノ本春日神社へ奉納、教育講演会、西脇高校とアピカホールの協賛のもとフアッシュンショーとミニコンサートを3月11日(日)午後から予定しています。これからもみなみ会の活動に皆様方の協力ご支援をよろしく願っています。
(事務局長西村安正)

編集後記

みなみ会が発足して、5年目になりました。本会の情報発信ツールとして、年4回発行しています。本会定款・目的の「西脇の自然歴史、文化」のキーワードに則した編集に心がけています。今号中央大学教授・藤原浩史氏に寄稿して頂きました。ご本人の日本語研究家のきっかけは、当地の方言であるとのことです。ふるさとのことばを、再認識する内容でした。まだまだ今回の投稿者に藤原氏が4人。これも地域性をうかがわせます。
(多夢)